



ホックに並ぶ伯耆町の農産品

伯耆町の

豊かな「食」を発信

伯耆町黒ぼくりゾート大山高原協議会



**町の新鮮な農産物を
地域の消費者へ**

伯耆町黒ぼくりゾート大山高原協議会(会長・幸形信之)は、フーズマーケットホック昭和町店・皆生店で、伯耆町産の生鮮野菜などの販売を始めました。

これは、協議会の物販事業の一環

として、生鮮野菜の販路開拓とともに、地域の消費者に伯耆町の安全・安心でおいしい農産物を届け、町の「食」を発信することがねらい。

毎週、月曜日と金曜日には、米子市内にあるホックの2店舗に、協議会会員の協力により仕入れた伯耆町産の農産品が、地場産品コーナーの一角に並びます。

特産品開発中!
株式会社イドムの小出宗昭氏を講師に迎えて、11月20日、溝口公民館で特産品開発の試食・意見交換会を行いました。

この日は、大山黒ぼくりロール(仮称)をはじめ、伯耆町産の米粉や白菜のお菓子や米粉とおからのお菓子、漬物、ナバナなどを開発しているチームの代表が、開発状況を報告しました。その後の意見交換会は、試食を交えて行われ、約2ヶ月に渡る開発期間中の苦労話や、感想などを話し合いました。



開発された商品を試食しながら、意見をだしあう会員たち



特産品として開発されたナバナを吟味する会員たち

講師の小出氏からは「物としては良いものだと思う。これをどのように演出して世に出すかがポイント」と好評。また、小出氏は全国の成功事例を紹介し、「特産品の開発は諦めたところで終わり。また、地元でどれだけ支持されるかも重要」と話しました。

開発商品については、年度内にパッケージを作成し、モニタリングを実施するなど、商品化に向けて取り組みます。

【問い合わせ先】
伯耆町黒ぼくりゾート
大山高原協議会
☎68・3161

まのいんど 岸本温泉 ゆうあいパル

岸本保健福祉センターの奥にある温泉施設が、「岸本温泉ゆうあいパル」です。温泉を活用した住民福祉と健康増進を目的に、平成14年10月にオープンしました。

ゆうあいパルには、温泉浴場と露天風呂がそれぞれ2つと、うたせ湯、高温サウナ、遠赤外線サウナ、雪肌サウナ(冷凍サウナ)があります。遠赤外線サウナで温まった後、マイナス4度以下の雪肌サウナで急激に冷ますことで、お肌の引き締め効果が期待できるそうです。

美容に 健康に 心もからだもリフレッシュ

その他にも、温水プールでウォーキングをしたり、リラックスマルムのマッサージ器でくつろいだり、プールの整体師に体中をほぐしてもらったり。トレーニングルームでは、定期的にヨガ教室も開催されています。また施設内には、中華料理店「湯味庵」もあり、一日ゆったり過ごすこともできます。

湯質は、PHが9.3と高めのアルカリ性単純泉であるため、お肌が

つるつるになると好評です。温水は、地下1,150mからくみ上げたもの。水などを混ぜることなく100%温泉水を70度以上の高温で殺菌しています。

この温泉を管理しているのが、「株式会社さんびる」。施設の清掃や従業員教育を徹底し、お客様をお迎えしています。特に、衛生管理を重視し、1日3回の定時検査のほか、月1回の専門機関による水質検査も行なっています。

安心して快適な岸本温泉ゆうあいパルを、ぜひご利用ください。
※年末は、12月29日まで、年始は1月2日から営業しています。



開放感満点のかけ流しの露天風呂

【問い合わせ先】
岸本温泉ゆうあいパル
☎68・5526

こちら伯耆町学校支援地域本部

〈町民みんなで支える学校 みんなで育てる伯耆町子ども〉
学校支援地域本部は、子どもたちや学校の応援団として、教育環境の整備支援と教育活動の支援を行なうためのボランティアバンクを運営しています。

11月末で、ボランティア登録が70名に達し、学校と町民のみならずの連携が進んでいます。
活動の一部をご紹介します。

11月の活動から

岸本小学校4年生は、妹尾千秋さんの案内で、佐野川用水を探索しました。
完成に250年も要した難工事の様子や、江戸時代の人々の願いを知り、子どもたちは、佐野川を大切にしていきたいと目を輝かせていました。



学習支援「佐野川用水探検」(岸本小)

丸山の森山さん夫妻のご協力で、錆びていた八郷小学校のサッカーゴールが見違えるようになりになりました。
寒くても、外遊びをする子どもたちが増えそうです。ありがとうございます。



環境整備支援「サッカーゴールのペンキ塗り」(八郷小)

平成22年も「子どもたちの応援団」として、町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

学校支援地域本部では、随時、ボランティアバンク登録を受け付けています。

【問い合わせ先】
教育委員会事務局 総務学事室
☎62・0927